令和６年度東御市総合交流促進施設（梅野記念絵画館・ふれあい館）運営委員会会議次第

日時：令和６年 10 月 28 日（月）午後 13：00～
場所：東御市役所第三委員会室

１　開会

２　委嘱書交付

３　市長挨拶

４　運営委員会の役割について

５　役員の選任

会長

副会長　　副会長

６　市長からの諮問
・「令和６年度寄贈作品（案）」について
・「令和７年度事業計画（案）」について

７　報告事項
（１）令和５年度事業実績について　・・・・・・・・・・・・・・資料１
（２）令和６年度事業取組状況について　・・・・・・・・・・・・・資料２
（３）梅野記念絵画館運営課題について　・・・・・・・・・・・・・資料３
（４）東御市梅野記念絵画館収蔵品収集方針（案）について　・・・・資料４

８　審議事項
（１）「令和６年度取得作品（案）」について　・・・・・・・・・・・資料５
（２）「令和７年度事業計画（案）」について　・・・・・・・・・・・資料６

９　答申

１０　その他
・令和８年度以降の事業計画について　・・・・・・・・・・・・・資料７
１１　閉会

「入館者数・入館料実績」

ア　入館者数・入館料

R5	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数（人）	431	672	358	261	326	532	858	327	56	161	427	520	4,929
入館料（千円）	130	168	74	72	46	138	230	175	8	32	60	99	1,232

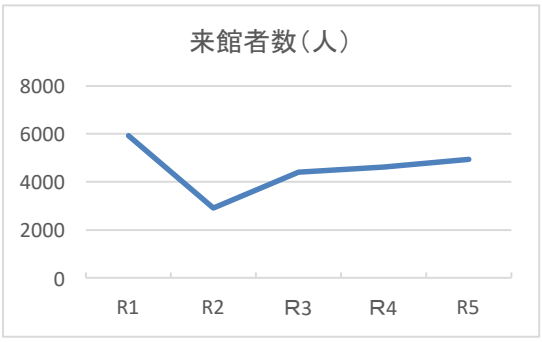
※入館者数は鑑賞目的にて来館した人の数を集計

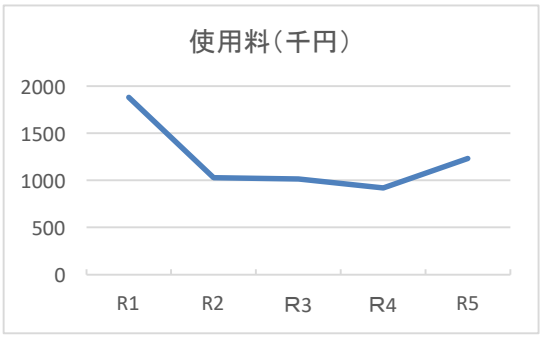
イ　過去５年間の推移

区　　分	R1	R2	R3	R4	R5	前年比
開館日数（日）	251	221	209	**242**	**251**	104%
来館者数（人）	5,931	2,913	4,396	**4,607**	**4,929**	107%
内訳：　一般	2,176	1,414	1,524	**1,404**	**2,166**	154%
小中学生	319	44	343	**377**	**370**	98%
割引	114	171	97	**141**	**237**	168%
会員	863	467	655	**561**	**394**	70%
招待減免	492	313	648	**544**	**349**	64%
喫茶	248	251	91	**294**	**275**	94%
その他（ふれあい館含む）	1,719	253	1,038	**941**	**1,138**	121%
使用料（千円）	1,881	1,029	1,016	**920**	**1,232**	134%

※使用料にはその他収入が含まれます。

ウ　過去５年間の来館者、使用料（入館料）の推移





令和6年度　東御市総合交流促進施設事業計画

《 事 業 予 定 表 》

<table>
<tr><th>月</th><th colspan="2">常設展</th><th>大展示室</th><th>ふれあい館</th><th>ホール</th></tr>
<tr><td>4月</td><td colspan="5">壁紙改修・ピクチャーレール設置工事のため休館</td></tr>
<tr><td>5月</td><td colspan="2" rowspan="3">梅野コレクション展Ⅰ
（木村直道・Fホドラー他）</td><td rowspan="3">5月11日～7月15日

館所蔵品精選展
令和5年度新規収蔵作品を含めて</td><td rowspan="3">5月11日～7月15日

佐藤文音展
-ふしぎな絵本と版画の世界-</td><td>5/23　ナイトミュージアム
竹内遥香ハープコンサート
5/25・26　佐藤文音公開制作</td></tr>
<tr><td>6月</td><td>6/22　佐藤文音展キッチンリトグラフワークショップ
6/23　ナイトミュージアム
塩嶋達美・宮下静香バロックデュオコンサート</td></tr>
<tr><td>7月</td><td></td></tr>
<tr><td>8月</td><td colspan="2">梅野コレクション展Ⅱ
（陽咸二・四谷十三雄他）</td><td>7月27日～9月1日

遠い風の旋律
杣雅司展</td><td>7月27日～9月1日

梅野コレクション展Ⅰ-2
（荘司貴和子・酒井亜人他）</td><td>8/20　ナイトミュージアム</td></tr>
<tr><td>9月</td><td rowspan="4">梅野コレクション展Ⅲ
（青木繁・菅野圭介他）</td><td rowspan="2">9月14日～10月15日
東信濃工芸作家展
vol.8.5
特別編
江戸末期の信州工芸</td><td colspan="2" rowspan="3">9月14日～11月24日

東御市発足20周年記念事業
東御の刀鍛冶-繋ぐもの-
源清麿、山浦真雄、山浦兼虎、そして宮入法廣へ</td><td>9/14　東御の刀鍛冶展OPセレモニー特別対談
9/18　ナイトミュージアム
尾尻雅弘ギターコンサート
9/21　東御の刀鍛冶展ギャラリートーク
9/28　友の会主催朗読会
9/29　東御の刀鍛冶展おっきいこんのすけ撮影会＆ミーティング</td></tr>
<tr><td>10月</td><td>10/12　火のアートフェスティバル
-13　工芸作家展ブース出店
10/17　宮入刀匠ギャラリートーク
10/26　東御の刀鍛冶展ギャラリートーク</td></tr>
<tr><td>11月</td><td rowspan="2">梅野コレクション展Ⅲ
（青木繁・菅野圭介他）</td><td>11/4　東御の刀鍛冶展ギャラリートーク
11/16　ナイトミュージアム
ピアニストユニットgraceスペシャルコンサート</td></tr>
<tr><td>12月</td><td colspan="2">収蔵庫整理期間</td><td>12/1　佐藤文音対話鑑賞WS
12/15　ナイトミュージアム
石井聡恵・竹内遥香デュオコンサート</td></tr>
<tr><td>1月</td><td colspan="2" rowspan="3">梅野コレクション展Ⅳ
（玉村方久斗・間部時雄　他）</td><td rowspan="3">１月11日～３月23日

梅野コレクションより探る杉浦非水展</td><td rowspan="3">市民ギャラリー</td><td>ギャラリートーク</td></tr>
<tr><td>2月</td><td>ギャラリートーク</td></tr>
<tr><td>3月</td><td>3/14　ナイトミュージアム
ミッキーと大地スペシャルコンサート</td></tr>
</table>

「展示事業」

ア　常設展・コレクション展

期間	展覧会名	概要	来館者（人）
５月～７月	梅野コレクション展Ⅰ	木村直道・Fホドラー　他	
８月～９月	梅野コレクション展Ⅱ	陽咸二・四谷十三雄　他	
９月～12月	梅野コレクション展Ⅲ	青木繁・菅野圭介　他	
１月～３月	梅野コレクション展Ⅳ	玉村方久斗・間部時雄　他	

イ　展示室

期間	展覧会名	概要	来館者（人）	開催日数（日）	一日平均（人）
５月11日 ～ ７月15日	館所蔵品精選展 令和5年度新規収蔵作品を含めて	絵画館のコレクションから精選した作品を展示する展覧会。今年度は令和5年度新規収蔵作品の河野扶の抽象画を中心に、アンフォルメル絵画の系譜の作品を展示。 また、倉沢コレクションから林倭衛作品を展示。	988	67	15
７月27日 ～ ９月１日	遠い風の旋律 杣雅司展	1946年愛媛県に生まれ、現在は山梨県北杜市のアトリエにて祈りの絵画を描く画家、杣雅司の代表作から新作までを展示し、画家の活動を紹介する。	496	29	17
９月14日 ～ 11月24日	東御の刀鍛冶 -源清麿、山浦真雄、山浦兼虎、そして宮入法廣へ-	江戸末期に活躍した東御市滋野出身の山浦真雄・源清麿（山浦環）の山浦兄弟と真雄の子山浦兼虎、そして現在東御市八重原に鍛錬場を構え作刀する宮入法廣氏ら東御市ゆかりの刀工をテーマとした展覧会。	4730 （10/17時点）	61	
１月11日 ～ ３月23日	梅野コレクションより探る、杉浦非水展	当館所蔵の杉浦非水の水彩画約50点を展示し、梅野コレクションの観点から非水作品の魅力と位置づけを探る展覧会。		60	0
			6,214	217	

ウ　ふれあい館

期間	展覧会名	概要	来館者（人）	開催日数（日）	一日平均（人）
５月11日 ～ ７月15日	佐藤文音展 -ふしぎな絵本と版画の世界-	「この世に存在する不確かなもの」をテーマに、ささやかな非日常を描く版画作家、佐藤文音の公立美術館では初となる展覧会。絵本「ふしぎなニャーチカ」の原画や多様な技法の版画作品を展示。	988	67	15
９月14日 ～ 10月20日	東信濃工芸作家展 vol.8.5　特別編 江戸末期の信州工芸	市内在住の陶芸作家角りわ子氏を中心に、地元を拠点に活動する作家の存在や作品を知ってもらおうと始まった展示会。今年度は特別編として、江戸末期に作られていた信州工芸作品を展示。刀剣展に関連性を持たせた内容で展示を行った。	235 (10/17時点工芸展目的の来館者数)	31	
			988		

「その他関連事業等」

ア　展示関連事業

企画展名	実施日	事業名	内容	参加者（人）
佐藤文音展 -ふしぎな絵本と版画の世界-	5月25日-26日	佐藤文音公開制作	2日間にわたって、作家・佐藤文音がキャンバスいっぱいに「ニャーチカ」の絵を描く公開制作イベント。	83
佐藤文音展 -ふしぎな絵本と版画の世界-	6月22日	身近に版画を楽しもう！ キッチンリトグラフ	コーラやアルミホイルなどの身近な素材を使って、作家と一緒にオリジナルの版画作品を制作。	18
東御の刀鍛冶-繋ぐもの- 源清麿、山浦真雄、山浦兼虎、そして宮入法	9月14日	オープニングセレモニー 「特別対談」	ふくやま美術館原田館長と宮入法廣刀匠による、山浦兄弟のエピソードや、東御市の刀剣文化についての特別対談。	70
東御の刀鍛冶-繋ぐもの- 源清麿、山浦真雄、山浦兼虎、そして宮入法	9月29日	「刀剣乱舞ONLINE」宣伝隊長　おっきいこんのすけ撮影会	「刀剣乱舞ONLINE」宣伝隊長　「おっきいこんのすけ」の撮影会。	300
東御の刀鍛冶-繋ぐもの- 源清麿、山浦真雄、山浦兼虎、そして宮入法	9月29日	刀剣を学ぶ！おっきいこんのすけミーティング	「刀剣乱舞ONLINE」宣伝隊長　「おっきいこんのすけ」が来館し、宮入法廣刀匠と一緒に刀剣や源清麿について勉強する企画。	35
東信濃工芸作家展 vol.8.5　特別編 江戸末期の信州工芸	10月12日-13日	火のアートフェスティバル工芸展ブース出店	火のアートフェスティバル開催時に、東信濃工芸作家展ブースを出店し、過去の展示作家による器などを販売する。	―
東御の刀鍛冶-繋ぐもの- 源清麿、山浦真雄、山浦兼虎、そして宮入法	10月17日	宮入法廣刀匠と地域おこし協力隊によるギャラリートーク	展示作品について、宮入刀匠と展示会担当職員による解説を行う。	60
東御の刀鍛冶-繋ぐもの- 源清麿、山浦真雄、山浦兼虎、そして宮入法	9月21日 10月26日 11月4日	地域おこし協力隊によるギャラリートーク	展示会担当職員が、初心者向けに刀の鑑賞方法や展示作品の解説を行う。	26＋
佐藤文音展 -ふしぎな絵本と版画の世界-	12月1日	東御市民に向けた対話鑑賞ワークショップ	佐藤文音の公開制作作品や版画、梅野コレクションの作品を活用して対話鑑賞のワークショップを行う。	
梅野コレクションより探る、杉浦非水展	未定	学芸員によるギャラリートーク	展示作品について、学芸員による解説を行う。	

イ　ホール活用事業

実施日	事業名	内容	参加者（人）
5月23日	ナイトミュージアムコンサート	竹内遥香氏によるハープソロコンサート。	36
6月22日	ナイトミュージアムコンサート	塩嶋達美氏と宮下静香氏によるバロックデュオコンサート。	58
9月18日	ナイトミュージアムコンサート	尾尻雅弘氏によるギターソロコンサート。	60
11月16日	ナイトミュージアムコンサート	ピアニストユニットgraceによるスペシャルコンサート。	
12月15日	ナイトミュージアムコンサート	石井聡恵氏と竹内遥香氏によるオーボエ&ハープデュオコンサート。	
3月14日	ナイトミュージアムコンサート	デュオユニット、ミッキーと大地によるスペシャルコンサート。	

ウ　図録等

図書名	内容	発行部数
遠い風の旋律　杣雅司展	杣雅司展　図録	250
東御の刀鍛冶 - 源清麿、山浦真雄、山浦兼虎、そして宮入法廣へ -	刀剣展　図録	1,000

杣雅司図録制作総部数500　うち作家扱いが250

「梅野記念絵画館」地域の連携・経営管理の検討

ア　設置、運営の状況

１）総合交流促進施設（梅野記念絵画館）

①設置状況（設置条例より）

■設置　・目的　市民の交流、文化活動の高揚、コミュニティの多目的活動に寄与する
　　・施設　梅野記念絵画館、ふれあい館
■事業　・美術品等の収集、展示
　　・美術に関する調査研究及び、講演会、講習会の開催
■開館　9 時 30 分～17 時
■休日　月曜日、国民の祝日の翌日、12 月 28 日～翌年 1 月 4 日

イ　絵画館等と地域の連携

１）地域社会との連携

【　課　題　】　地域社会とどのようなかかわりをもって、どのように共生していくかが課題である。

【検討方針】　ふれあい館活用検討会を開催し、ふれあい館を活用した地域との連携策を模索する。

【検討経過】　平成 30 年度～平成 31 年度にかけ３回の検討会を開催し、３つの方針（案）を策定。

【取組方針】　本来の「地域の交流の場」という施設の活用目的を元に　①地域コーディネート　②若年層への訴求　③普及事業の３つの方針のもと活用する。

２）周辺施設との連携

【　課　題　】　本施設は、芸術むら公園の中にあり、様々な年代の利用がある。実施されるイベントや周辺施設や企業とタイアップすることで、訪れる目的が増え、来館者も増えることが見込むことができ、具体的な連携策が必要である。

【検討方針】　地域づくり支援室を中心に芸術むら公園にぎや会議に参加し、エリアマネジメント視点で、芸術むら公園関連施設との具体的な連携策を模索する。

【検討経過】　令和２年９月の第一回会議に参加し、地域の方々等ステークホルダーと課題の洗い出しと共有を行った。コロナ渦で以降会議は開催されていない中、本年度庁内の関係課による会議が開催された。

【　経　過　】　わざわざが展開する公園内カフェの問 tou といとう写真館出張撮影会 2022 を共催し、会場の一部提供等で協力を行った。（令和 4 年度）

３）丸山晩霞記念館との連携

【　課　題　】　東御市には美術館が二つあるが、梅野記念絵画館はここだけで完結している。
丸山晩霞記念館には、子どもたちとのワークショップや学校との関わりなどの個性があるため、連携を行うなど東御市に美術館が二つあるメリットを活かす必要がある。**（令和４年度運営委員会前澤委員より）**

【検討方針】　丸山晩霞記念館で実施してきた教育普及事業が、今後は美術館単独の事業ではなく、文化スポーツ振興課の事業として転化していくため、両館が事業に関わる体制

を検討する。

【 経 過 】 文化スポーツ振興課の教育普及事業として、梅野記念絵画館及び丸山晩霞記念館の収蔵作品を用いた鑑賞ワークショップ等を実施。また、これまで丸山晩霞記念館が行なってきた学校ワークショップへの学芸員の参加など、学芸員同士の連携に向け活動を行っている。

ウ 絵画館等のマネジメント

１）学芸員の能力向上

【 課 題 】 各地の美術館ではマネジメントや効率化が求められている中で、本市の絵画館等においても、研修等により学芸員の能力を高め、豊かな個性と付加価値をつけていくことが必要である。展示のスキルを上げるべきである。（**令和３年度運営委員会三澤委員より**）

【検討方針】 学芸員の雇用、育成方針について検討する。

【 取組方針 】 学芸員のシンビズムへの派遣により、学芸員の能力を高める。

【 経 過 】 館長のシンビズムへの参加。学芸員のシンビズムへの参加。

２）マーケティングの重要性

【 課 題 】 厳しい財政運営が続き、公共施設の再編や統合も考えられる中、いかにすると美術館のサービスを多くの方々に利用してもらうことができるかをマーケティング手法により計画性し実行することが必要である。

【検討方針】 アンケート、SNS の活用、ターゲットを絞る等マーケティング計画について検討する。

【取組内容】 令和６年度特別展において、展覧会公式 X を開設し、情報発信を行った。展覧会お知らせのポストは閲覧回数 60 万件、リポスト（情報拡散）約 6000 件を記録し、絵画館の周知につながった。

３）マーケティングの重要性 - 2

【 課 題 】 梅野記念絵画館として Instagram を開設すべき。今の時代、ホームページよりも Instagram で情報を得ている人が多い。美術館の企画を Instagram で発信し、人々へ広報できればと思う。（**令和４年度運営委員会角委員より**）

【検討方針】 美術館での SNS 発信の制度について検討する。

【取組内容】 令和４年度 11 月に梅野記念絵画館の Instagram を開設。展覧会のお知らせや展示室の様子、イベント情報などについての発信を行なっている。

４）開館日、時間、使用料などの柔軟性

【 課 題 】 来館者の増加を図るため、開館時間を、季節や展覧会に応じて変更することや、開館日、企画展に合わせた観覧料の調整等、一定のルールに柔軟性を持たせることが必要である。入館料の検討とともにその具体案として入館パスポートについて検討してもらいたい。

【検討方針】 開館日、時間、使用料は条例定め事項のため、見直すべき条文を洗い出し、改正を検討する。

【取組内容】 令和２年度より満月の日に延長開館を行うナイトミュージアムを開催している。
絵画館のロビーの窓から見える、月の光が映し出す浅間山の稜線や明神池に映る月の美しさを PR し、異なる切り口からの来館者増を目指したい。
令和５年度よりナイトミュージアム開催日にスペシャルコンサートを実施。
異なる切り口として音楽ファンの来館者増を目指した。

【 経 過 】 使用料については、令和３年度条例改正を行った。常設展示 300 円（200 円）、特別企画展はその都度定める規定を加えた。入館パスポートについては引き続き検討する。

６）企画展の在り方

【　課　題　】　梅野記念絵画館における企画展は物故作家を中心に、埋もれた作家を掘り起こし、顕彰することを趣旨としており、今後も館の個性を維持する重要なテーマである。一方地域の美術館として、地域に焦点を当てる企画を実施し、この双方を両輪に館運営をする必要がある。

【検討方針】　数ヵ年計画の中で地域やコストパフォーマンスを意識した企画展の開催を検討していく必要がある。

【検討経過】　ふれあい館を活用し、地域との連携や関わりを模索する。また、ふれあい館を地元の人に活用していただくために貸館規定を条例に盛り込むことを検討する。

【取組内容】　令和２年度はGWに地域の子どもたちに向けた絵本の原画展や私の愛する一点展と連動させ、生活の中に美を取り入れることを地域に提案する展示、地元作家の展示、東信濃工芸作家展を火のアートフェスティバルの時期に合わせ、工芸のお祭りとして地元と共に盛り上げていくことを狙いとする等、地元を意識した企画をふれあい館の企画として盛り込んだ。
令和３年度も同様の方向性でふれあい館での展示内容を実施した。また、ふれあい館を地元の人に活用していただくために令和３年度に貸館規定を条例に加えた。
令和５年度については火のアートフェスティバル開催時に、東信濃工芸作家展出展作家の作品を購入することのできるブースを出店し、芸術むら公園でのイベントとの連携を行なった。
令和６年度、地域の方々の来館の敷居を下げるため、小中学生をメインターゲットとした絵本原画展を実施。また、絵本原画展を活用した課外部活動や対話鑑賞事業を実施予定。また、埋もれた現代作家の顕彰や、地域に縁のある刀工を取り上げた展覧会など、幅広い分野の展覧会を開催した。

７）収集・保存事業−１

【　課　題　】　梅野記念絵画館を地域の方々に身近に感じていただくために、絵画館が持つ多くの情報を市民と共有すべきである。

【検討方針】　収蔵品情報や取得作品について積極的な情報提供の制度を検討。
展覧会企画へのスポンサー契約及び、メセナ等の複合型運営を検討。

【取組内容】　必要な情報を提供するためのプラットホームの整備として、令和２年度にホームページを改修した。現在、館の主要作品である青木繁、菅野圭介、伊藤久三郎、荘司貴和子、今西中通の作品情報についてデジタルアーカイブ化事業を実施、ＨＰで公開中。（令和２年度）。他の主要作家についてもデジタルアーカイブ化を検討中。
また、以降も総務省が推進するデジタルアーカイブ化への着手を検討。
令和６年度、引き続きデジタルアーカイブに向けて準備を進めている。

８）収集・保存事業−２

【　課　題　】　建物が築 20 年以上経過し、空調設備の不具合が出てきた。収蔵庫には空調設備がなく、近年の異常気象が続く中、作品の収蔵環境に不安があり、早急な対策が必要である。

【検討方針】　合併特例補助金や公共施設適正管理事業債を活用した改修を実施を検討する。

【取組内容】　収蔵庫は合併特例補助を活用し、令和２年度に除加湿器の設置工事を行った。令和３年度には施設全体の空調改修を冬季休館中に実施。加えて、移動式の加湿器４台の導入を合わせて実施した。また、絵画館入口へのアプローチ道（木道）についても修繕を実施した。
令和６年度に大展示室、小展示室及びふれあい館の壁の改修を実施。
また、展示室すべてにピクチャーレールを設置。特にふれあい館において、市民が展示作業を行いやすいような整備を行った。

９）収集・保存事業-３

【 課　題 】　近年作品の寄贈の申出が増え、収蔵庫の収蔵率が上昇。今後は収蔵方針を定め、今まで以上に厳選する必要がある。（令和３年度美術品資料選定委員会）
特に現存作家の作品の収集について、方針が決まっていない部分がある。（令和４年度）
収蔵庫の収蔵率が高く、今後新たに寄贈を受け入れることがかなり厳しい状況。外部の空きスペースなどに一旦置くことはできないか。（令和５年度）

【検討方針】　収蔵方針について検討する。

【 取組内容 】　収蔵方針素案を策定中。また、収蔵場所および活用方法を検討中。

１０）友の会との協力体制の見直し

【 課　題 】　固定客の確保のために会員の増加を図らなければならないが、会員の固定化、高齢化により今後ますます減少していくことが見込まれる。また、友の会業務と美術館運営業務の混同が見られるため整理が必要。

【検討方針】　会員制度等諸制度の見直しについて、友の会と検討していく。

【検討経過】　絵画館館長と友の会幹事による打合せ、意見交換を行いながら見直しを行っている。令和２年度は友の会主催の「美術サロン」を私の愛する一点展の期間中に開催。友の会会員から登壇者を招き、絵を手にし、観る楽しさを館長とのクロストークを交えて紹介した。コロナ渦ということもあり、なかなか開催が難しくなっているのが現状。友の会の事務は美術館業務と分けて、友の会長野幹事を中心に推進する体制を取っていただいている。（令和３年度）

１１）友の会との協力体制の見直し-2

【 課　題 】　友の会主催の「私の愛する一点展」の図録作成にあたり、著作権の扱いに特に注意が必要。
図録を販売するのではなく、寄付という形にすることも考えられる。（令和６年度梅野委員）

【検討方針】　作品借用の際の著作権確認について、友の会と検討していく。

１２）ショップ、喫茶

【 課　題 】　ショップや喫茶は、美術館を訪れる者の楽しみの場であるが、人と予算が限られる中で、十分なサービスの提供の可否が課題である。

【検討方針】　喫茶・物販に関し、外部委託の検討を行う。

【 取組内容 】　東御の刀鍛冶展にて、観光協会協力のもと iPad での Air レジを導入。（令和６年度）

１３）ボランティア

【 課　題 】　人と予算が限られる中で、サービスの質を落とさず運営を行うためには、美術館に関わる人材を多く生み出すことが課題である。
新たな取り組みを行う際に、今のスタッフの人数ではもたない。また様々な問題が実際動いておらず、館の中でのコミュニケーションが取れていないのでは。
（令和４年度運営委員会三澤委員より）

【検討方針】　ボランティアの育成や活用について他の美術館の事例について研究し、人材確保の課題に向けて検討する。また友の会会員に対する事前内覧会やギャラリートークを開催し、館の企画展の趣旨や内容を理解・共有していただく機会を設け、展覧会の周知や盛り上げに関し共に活動をできる体制の構築を試みる。

１４）博物館登録について

【 課 題 】 博物館登録がなされていないことは、作品の貸借において絵画館に対する他館からの信頼性を欠くこととなり、企画推進の足かせとなる。また、今後登録要件の補助金等が出てくる可能性がある。（令和元年度は博物館登録をしている館に対し、文化庁による博物館クラスター形成支援事業が実施された）

【検討方針】 博物館登録を令和３年度に行う。

【 経 過 】 設立の経過として農業施設という位置づけで補助金を活用し、建設された施設であるため、用途変更等の手続きがあり、長野県地域振興局、長野県生涯学習課等との協議を実施してきた。しかし、農業施設という位置づけで補助金を活用した経過から、建物が耐用年数 50 年を迎えるまでは、用途変更は難しい状況にある。

１５）美術館の新たな役割

【 課 題 】 文化芸術が一体何ができるのかが問われている時代の中で、もう少し違った文化の役割としての地域の中で何ができるのかということを検討する必要がある。例えば東信の美術だけではない役割の芸術文化にかかわっていくものを所管する機関、そういうところと一緒に連携して何ができるかというのを問いかけていくと、そういうことが市民に対する、また広域に広がっていく、そういうきっかけになっていくのでは。（**令和２年度運営委員会保科委員より**）文化というものを美術だけで捉えずに、演劇とか音楽等食も文化ですから、その多様な文化をつなぎ合わせる必要がある。（**令和２年度運営委員会三澤委員より**）

【検討方針】 美術館と学校の連携や教育普及の重要性が浸透しつつある中で、現在は学校との一層の連携を模索中。また、ふれあい館における展覧会で地域性や身近なテーマ性を持たせた展覧会を開催し、他分野との連携を実施。

【 経 過 】 11 月に学校と美術館をつなぐ教員向け研修会を文化・スポーツ振興課で開催した。またふれあい館で開催した「はらぺこめがねアートワーク展」では、食をテーマに創作活動を行う彼らのアートワークのうち、東御市の食文化に関わる作品という枠でテーマ展示した。その中で市内の畜産業者と食育に関する事業を実施した。（令和３年度）

令和 6 年度、学芸員が部活動指導員として北御牧中学校の美術部の指導を行った。地域部活動移行の流れの中、学芸員の立場から芸術文化と学校をつなぐ美術館の活用方法を模索中である。

１６）美術館の新たな役割 - 2

【 課 題 】 今美術をやる若者の数が激減しており、美術館の中に若い世代を入れていくことが喫緊の課題。長野県は自然が豊かであり、そういう自然観を活かしてクリエイティブな能力のある子を育てていく。そういう役割を美術館も考えるべき。（**令和３年度運営委員会保科委員より**）

風景、公園の景観などの資産を生かして、自然の中にある文化施設であることを強調した展覧会やイベントを作るべき。（**令和４年度運営委員会保科委員より**）

【検討方針】 自然観や地域の風土を活かした企画や教育普及事業について今後研究する。

長野県の自然を描くために作家が多く入ってくる歴史があり、県の自然と美術制作をつなぐ機会の創出についても検討する。

エ その他

１）Wi-Fi の充実

【 課 題 】 令和２年度、国では giga スクール構想の中で、2,300 億円を投じ、Wi-Fi の充実を図る事業を実施している。またコロナ渦で美術館の利用ニーズが変わっている

中でインフラ整備が重要である。（**令和２年度運営委員会三澤委員より**）
より世界と繋がっていくこれからの時代において、Wi-Fi が美術館にあることはかなり重要。作品が少ない美術館も、そこに Wi-Fi があればバーチャルな作品を呼んでくることができるため、Wi-Fi の充実を早急に実施すべき。（**令和４年度運営委員会三澤委員より**）

【検討方針】　性能的な点含め、所管課に確認する。

【検討経過】　美術館では、館内独自の Wi-fi 整備は完了している。市内においてはＳＳＩＤ認証が必要な１日３回、１回 30 分のフリーアクセスポイントが東御市役所、湯ノ丸高原、海野宿、田中駅、道の駅「雷電くるみの里」、芸術むら公園に設置。また学校については、全小学校の普通教室、特別教室にアクセスポイントが整備されている。

東御市梅野記念絵画館収蔵品収集方針（案）

１　基本的な考え方

当館の収蔵品は、開館時に寄贈を受けた梅野隆のコレクション（以下、梅野コレクションという。）がベースになっている。梅野隆は、生涯を通じて「特異な業績を上げながら忘却されている作家や、不遇な生涯を終えた作家を再評価し、世に知らしめること」を信条にしていた。当館は、初代館長を務めた梅野隆の理念を継承し、運営している。

また、地域の公立美術館として、この地方にゆかりのある作家で、その存在を後世に伝えていく必要のある作家の作品を収蔵する。

２　収集対象

(1) 原則として、収集対象を日本及び世界の近現代美術作品とする。
(2) 梅野コレクションの作家の作品で、当該作家の芸術性を理解するうえで重要な作品、またはその全作品を通覧するうえで既存コレクションが欠落している時期の作品。
(3) 上記理念に基づき開催した展覧会で対象とした作家で、その作家の芸術を語るうえで必要と思われる作品。
(4) これまで展覧会は開催していないが、梅野隆の理念に沿う作家で、展覧会を開催する可能性のある作家、または残存する作品が少なく展覧会を開催できないが、貴重であり散逸の危険性を回避するために収集の必要性のある作家の作品。
(5) 東御市が所在する長野県東信地方の美術史を語るうえで必要な作家で、美術館が収蔵するに相応しいレベルの作品。
(6) 上記のいずれにも該当しないが、日本近代美術史に既にその存在が位置づけられている作家で、収蔵が相応しいと考える作品。

３　審査

上記の収集対象となった作品は、東御市総合交流促進施設（梅野記念絵画館・ふれあい館）運営委員会で審議され、了承されたうえで、東御市美術品取得審査委員会を経て収蔵が決定される。

8 審議事項
（1）令和6年度取得作品（案）について

No.	題名 / 作家	年代	技法	サイズ	写真	寄贈者	備考
1	山本弘 流木	1978	油彩 キャンバス	20号 F 72. 8×60. 6		山本愛子 岡森湘	2023年 山本弘展 開催
2	山本弘 銀杏	1978	油彩 キャンバス	20号 F 72. 8×60. 6		山本愛子 岡森湘	2023年 山本弘展 開催
3	吉岡憲 山村	1934頃	油彩 キャンバス	4号 F 24.1×33.3		出川博一	2017年 吉岡憲vs小出三郎展 開催
4	白鳥映雪 青衣		日本画 紙	80号 F 145×110		濱武輝俊	白鳥映雪作品21点所蔵

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質		サイズ
1	山本弘	流木	1978年	油彩	キャンバス	72.8×60.6

寄贈

【佐野悠斗　梅野記念絵画館（学芸員）　説明】

山本弘は信州飯田で生涯の大半を過ごし、51歳で自死した異色の画家である。1930年に飯田で生まれ、16歳で全信州美術展（長野県展の前身）入選。日本美術会飯伊支部、飯田市美術協議会などの結成に参加するが、1966年頃よりアルコール中毒となり、手足が不自由となる。1981年自宅で縊死。

令和5年度企画展「All is vanity. 虚無と孤独の画家ー山本弘の芸術」開催を機会に、当館に寄贈されたい旨遺族から申し出があった。その業績が忘却された不遇の画家であり、当館の所蔵とするに問題ない質を備えている。中でも、パレットナイフで描かれた本作は画家の芸術性をよく示している。

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質		サイズ
2	山本弘	銀杏	1978年	油彩	キャンバス	72.8×60.6

寄贈

【佐野悠斗　梅野記念絵画館（学芸員）　説明】

山本弘は信州飯田で生涯の大半を過ごし、51歳で自死した異色の画家である。1930年に飯田で生まれ、16歳で全信州美術展（長野県展の前身）入選。日本美術会飯伊支部、飯田市美術協議会などの結成に参加するが、1966年頃よりアルコール中毒となり、手足が不自由となる。1981年自宅で縊死。

本作は画家の晩年の作であり、身体の自由が利かない中でキャンバスに絵具を重ねて描かれている。奥村土牛の「醍醐」との構図の類似性も指摘されており、画家の芸術性をよく示す作品といえる。

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質		サイズ
3	吉岡憲	山村	1934年頃	油彩	キャンバス	24.1×33.3

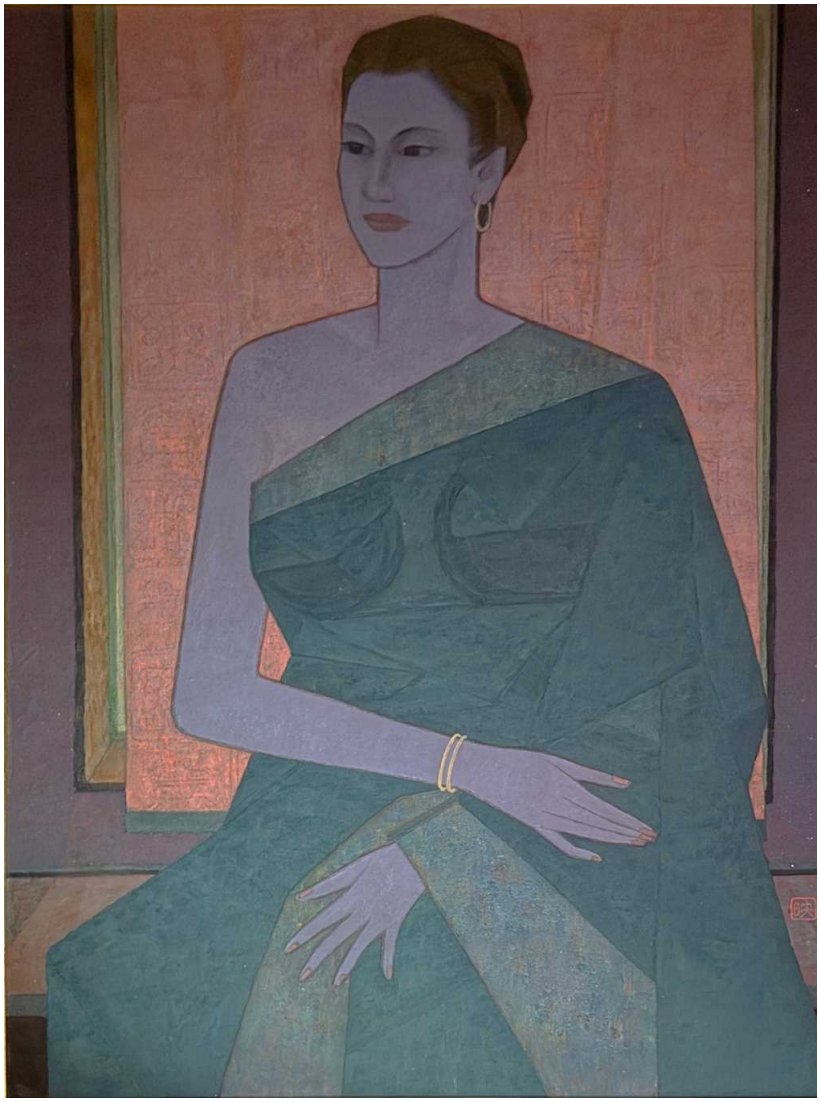
寄贈

【佐野悠斗　梅野記念絵画館（学芸員）　説明】

1915年東京府北多摩で生まれた吉岡憲は、1935年より満州ハルビンに四年間滞在し、帰国後は独立展を中心に活動を行う。またインドネシア・ジャワ方面にて、同地での住民への文化指導にも従事。1956年、東中野の踏切にて電車に飛び込み、40歳で没する。本作は布良の漁村風景が描かれており、吉岡憲が渡航前に千葉県夷隅郡の長岡寺に逗留していた1934年頃の作と思われる。
オブセッションギャラリー（東京）代表の出川博一氏より、当館に寄贈されたい旨申し出があった。当館企画展でも取り上げた作家であり、既に所蔵の吉岡憲作品と合わせ、活用の可能性を大いに持つ作品である。

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質		サイズ
4	白鳥映雪	青衣	調査中	日本画	紙	145×110

寄贈



【佐野悠斗　梅野記念絵画館（学芸員）　説明】

白鳥映雪は1912年小諸市に生まれ、日本画家伊東深水のもとで美人画などを制作し、日展などで活躍した。1994年に恩賜賞、日本芸術院賞を受賞し、1997年には日本芸術院会員となる。2003年には勲三等瑞宝章を受賞するなど、数多くの賞を受賞し、日本画壇最高峰の画家として名高い画家である。晩年は病の影響で身体の自由がきかない中絵を描き続け、2007年95歳で没するまで画家としての活動を続けた。

梅野記念絵画館では、東御市が北御牧村だった時代に村が画家に資金的援助をした関係で、白鳥映雪作品を開館時から日本画、水彩画合わせて21点を所蔵している。既に所蔵の作品と合わせ、活用の可能性を大いに持つ作品である。

令和7年度　東御市総合交流促進施設事業計画

《 事 業 予 定 表 》

<table>
<tr><th>月</th><th>常設展</th><th>大展示室</th><th>ふれあい館</th><th>ホール</th></tr>
<tr><td>4月</td><td colspan="4">展示替のため休館</td></tr>
<tr><td>5月</td><td>梅野コレクション展Ⅰ
4/5（土）～6/8（日）</td><td>館所蔵品精選展
令和6年度新規収蔵作品を含めて
4/5（土）～6/8（日）</td><td>おしゃべりさんの展覧会（仮）
4/5（土）～6/8（日）</td><td></td></tr>
<tr><td>6月</td><td colspan="4">展示替のため休館</td></tr>
<tr><td>7月</td><td>梅野コレクション展Ⅱ
6/21（土）～8/24（日）</td><td>第23回　私の愛する一点展
6/21（土）～8/24（日）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8月</td><td colspan="4">展示替のため休館</td></tr>
<tr><td>9月</td><td rowspan="2">梅野コレクション展Ⅲ
9/6（土）～11/3（月・祝）</td><td rowspan="2">特別展　前衛をひらく
山田正亮の色層と抽象（仮）
9/6（土）～11/3（月・祝）</td><td rowspan="2">東信濃工芸作家展
vol.9
9/6（土）～10/13（月・祝）</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>10月</td></tr>
<tr><td>11月</td><td colspan="4">展示替のため休館</td></tr>
<tr><td>12月</td><td>梅野コレクション展Ⅳ
11/15（土）～1/11（日）</td><td>東御の刀剣
―東御の文化資産―（仮）
11/15（土）～1/11（日）</td><td>市民ギャラリー</td><td></td></tr>
<tr><td>1月</td><td colspan="4">年末年始休館</td></tr>
<tr><td>2月</td><td>梅野コレクション展Ⅳ
11/8（土）～1/11（日）</td><td>東御の刀剣
―東御の文化資産―（仮）
11/8（土）～1/11（日）</td><td>市民ギャラリー</td><td></td></tr>
<tr><td>3月</td><td colspan="4">展示替のため休館</td></tr>
<tr><td></td><td>梅野コレクション展Ⅴ
1/24（土）～3/22（日）</td><td>木雨賞受賞記念
島村洋二郎の筆跡（仮）
1/24（土）～3/22（日）</td><td>市民ギャラリー</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="4">次年度企画展準備</td></tr>
</table>

ア 大展示室

企画展 「館所蔵品精選展 令和６年度新規収蔵作品を含めて」

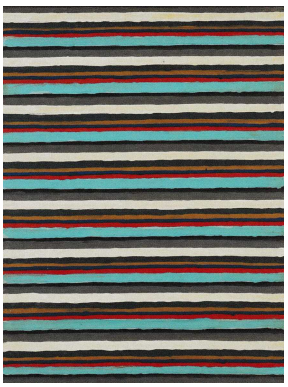
１） 会　　期　令和７年４月５日（土）～令和７年６月８日（日）
２） 入 館 料　500 円
３） 主　　催　東御市梅野記念絵画館
４） 概　　要　梅野記念絵画館では、梅野コレクションや郷土ゆかりの作家で構成された倉沢コレクションを中心にその所蔵作品数は約 1,000 点を超えます。本展では、当館コレクションの中から、それらコレクション作品をはじめ、展覧会を機にご寄贈いただいた作品を含む約 60 点を精選して紹介します。

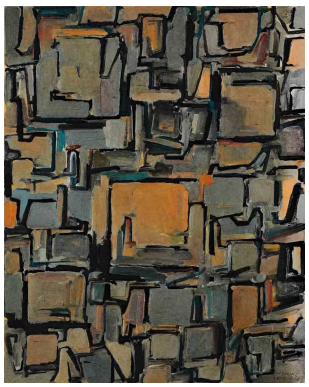
企画展 「第 23 回私の愛する一点展」

１） 会　　期　令和７年６月 21 日（土）～令和７年８月 24 日（日）
２） 入 館 料　300 円
３） 主　　催　梅野記念絵画館友の会
４） 共　　催　東御市梅野記念絵画館
５） 概　　要　絵画館を支える友の会の会員が一人につき一点を作品に関するエピソードや想いをつけて展示する企画。観覧者による人気作品の投票や優秀者への賞の進呈などを行います。

特別企画展 「前衛をひらく 山田正亮の色層と抽象（仮）」

山田正亮〈Work.B.136〉


山田正亮〈Work.C.113〉


山田正亮〈Work.D.301〉

１） 会　　期　令和７年９月６日（土）～令和７年 11 月３日（月・祝）
２） 入 館 料　800 円（予定）
３） 主　　催　東御市梅野記念絵画館
４） 概　　要　初代館長梅野隆が蒐集した作品群からなる梅野コレクションは、近代洋画を中核に日本画、水彩画、彫刻など多岐にわたります。その中で、前衛美術の視点も見逃せません。荘司貴和子をはじめ伊藤久三郎や菅野圭介など、梅野コレクションには戦後復興期の 1960 年代の抽象表現の系譜が見られます。本展では、戦後 80 年の節目に、コレクションを軸とした抽象絵画の流れを汲み取り、梅野隆の前衛に対する探求の視点に迫ります。また、蒐集作品外の視点から、戦後動乱期において特異な活動を示した画家、山田正亮を取り上げ、前衛の観点における梅野コレクションの展望や可能性を考察します。
これまで梅野記念絵画館ではあまり紹介されることのなかった 60 年代の抽象美術に目線を向け、日本の抽象運動を牽引した長谷川三郎や吉原治良を導入に、戦後の憔悴した社会の中で筆を握り独自の抽象表現で絵画を追求した画家山田正亮を紹介します。

本展覧会を通して 60 年代抽象表現の時代性を探ることで、新たな視点から梅野コレクションにおける梅野隆のコレクターズ・アイを探る試みとなることを目指します。

５） 関連事業 ９月６日（土）オープニングレセプション

企画展 「東御の刀剣―東御の文化資産―」（仮）

１） 会　　期 令和７年 11 月 15 日（土）～令和８年１月 11 日（日）
２） 入 館 料 500 円（予定）
３） 主　　催 東御市
４） 後　　援 信濃毎日新聞社、週刊上田新聞社
５） 助　　成 一般財団法人地域創造
６） 概　　要 令和 6 年度企画展「東御の刀鍛冶－繋ぐものー源清麿、山浦真雄、山浦兼虎、そして宮入法廣へ」では、東御市ゆかりの刀工を紹介しましたが、東御市内には「石尊さまの納め刀」、「両刃神社太刀」等、地域にゆかりのある刀剣が存在し、大切にされてきました。本企画展では、刀工から刀剣へ視野を広げ、東御市の更なる刀剣文化振興を図ります。
７） 関連事業 （１）宮入刀匠と銘切をしてみよう！
（２）サッセンを体験してみよう！
（３）居合体験をしてみよう！
（４）刀剣鑑賞会

企画展 「木雨賞受賞記念 島村洋二郎の筆跡」（仮）

島村洋二郎〈自画像〉

島村洋二郎〈或る男〉

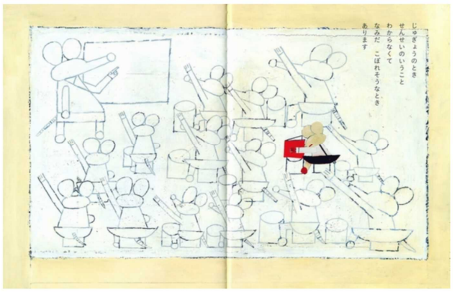
島村洋二郎〈緑色の首飾りの女〉

１） 会　　期 令和８年１月 24 日（土）～令和８年３月 22 日（日）
２） 入 館 料 500 円（予定）
３） 主　　催 東御市梅野記念絵画館
５） 概　　要 島村洋二郎は 1916（大正 5）年東京都牛込区中町に生まれ、東京および妻の実家がある長野県飯田市を中心に活動を行いながらも、肺結核により 37 歳で夭逝した早世の画家です。洋二郎の絵画にはデフォルメされた人物たちが描かれ、その強烈なタッチと色彩によって、その画面は戦後の暗い時代を象徴するかのようなずっしりとした印象に満ちています。
洋二郎の姪の島村直子氏は、偶然手に取った本に伯父と同じ名前の画家の絵が載っていたことから、調べていくうちにそれが伯父島村洋二郎であったことを知り、以降長年にわたり画家の顕彰につとめます。当館の名物企画「私の愛する一点展」にも洋二郎の作品を出品し続けるなど、活動を通して画家の存在を現代へと発信し続けています。そういったこれまでの顕彰活動が評価され、島村直子氏は令和 6 年度木雨賞を受賞しました。木雨賞とは、梅野隆の没後、その志を引き継いで物故作家の顕彰や研究を続けている人に贈られます。当館で

は、この受賞を記念し、「木雨賞受賞記念　島村洋二郎の筆跡（仮）」を開催いたします。本展を通して、戦中、戦後の動乱期を駆け抜けた島村洋二郎の絵画を紹介し、地域ゆかりの画家の仕事を改めて美術史上に位置付けるとともに、展覧会が画家の存在が忘却されることなく次代へとつなぐ機会となることを目指します。

イ　ふれあい館

企画展　「おしゃべりさんの展覧会」（仮）



絵本　「おなみだぽいぽい」後藤美月（イラストレーター）

１）　会　　期　令和７年４月５日（土）～令和７年６月８日（日）
２）　入 館 料　500 円
３）　主　　催　東御市
４）　概　　要　東御市または周辺在住の小学１年生とその親を対象とした、絵本の原画の展覧会を開催します。小学１年生は、環境の変化による心身の不調が出現しやすい時期であり、親子間の対話を特に必要とします。しかしながら、１年生の発達段階では感情を言語化し親へ伝達することが困難です。
そのようなシーンにおいて、作中の登場人物の心理をビジュアル化し表現する「絵本」、そしてそれらを用いた対話鑑賞は、親子間の対話の補助ツールとなり、両者の相互理解の機会になり得ます。
以上から、本展は作家のアートワークの紹介に加え、親子の対話及び相互理解を生み出すツールとしての絵本の機能を主軸に据えたものとします。
６）　関連事業　【案 1】対話鑑賞と制作を併せた WS
【案 2】「対話を生み出すツールとしての絵本」講演会

企画展　「東信濃工芸作家展 vol.09」（同時開催　火のアートフェスティバル）

１）　会　　期　令和７年９月６日（土）～令和６年 10 月 13 日（月・祝）
２）　入 館 料　無料
３）　主　　催　東御市梅野記念絵画館
４）　協　　力　角りわ子
５）　概　　要　市内在住の陶芸作家角りわ子氏を中心に、地元を拠点に活動する作家の存在や作品を知ってもらおうと始まった展覧会です。令和６年度と同様、火のアートフェスティバルの開催時期に合わせることにより、工芸のお祭りの一体感の醸成に寄与することをねらいとし、多くの方々に鑑賞いただく機会を作ります。
６）　関連事業　ワークショップ、火のアートフェスティバルでの作家作品の販売等

令和８年度以降　東御市総合交流促進施設事業計画（案）

《 事 業 予 定 表 》

<table>
<tr><th>月</th><th>常設展</th><th>大展示室</th><th>ふれあい館</th><th>ホール</th></tr>
<tr><td>4月</td><td rowspan="4">梅野コレクション展</td><td rowspan="2">絵画館コレクション展</td><td rowspan="2">子ども向け企画展
．佐藤江未展影アート
・kawada工業展
・冨田菜摘×日本廃品打楽器協会展
・柴田ケイコ展
・藤井蓮展
・樋口朋巳展
・櫻井結祈子展
対話鑑賞絵本展
・町田尚子展</td><td></td></tr>
<tr><td>5月</td><td></td></tr>
<tr><td>6月</td><td rowspan="2">私の愛する一点展</td><td rowspan="2">貸館</td><td></td></tr>
<tr><td>7月</td><td></td></tr>
<tr><td>8月</td><td rowspan="4">梅野コレクション展</td><td rowspan="4">特別企画展

・近藤光紀展
・梅野隆生誕100年展（2026年）
水戸了一展
没後100年（2026年）
・小林邦二展2026（誕110）
・わたなべゆう展
・荒井龍男展
・藤井令太郎×田中岑
・金光珠展
・田村泰二展
・森田勝展
・後藤禎二展
・相吉沢久展
・酒井亜人展
・西田勝展</td><td></td></tr>
<tr><td>9月</td><td rowspan="2">東信濃工芸作家展</td><td></td></tr>
<tr><td>10月</td><td></td></tr>
<tr><td>11月</td><td rowspan="2">貸館</td><td></td></tr>
<tr><td>12月</td><td rowspan="2">梅野コレクション展</td><td colspan="3" rowspan="2">収蔵庫整理期間</td></tr>
<tr><td>1月</td></tr>
<tr><td>2月</td><td rowspan="2">梅野コレクション展</td><td rowspan="2">地域作家及び主要所蔵作家研究企画展

・佐藤利平展
・相吉沢久展
・酒井亜人展</td><td rowspan="2">貸館</td><td></td></tr>
<tr><td>3月</td><td></td></tr>
</table>